COOP-JOSO News Letter



2021年3月1回号 発行:常総生協広報G

2020年度活動テーマ「JOSO食材でかんたん・おうちゴハン ~食卓から笑顔あふれる未来へ~」

3.11から10年~未来につなげよう~

2021年3月で東日本大震災及び福島第一原発事故から10年、そして2021年3月18日には、東海第二原発運 転差止訴訟の判決言い渡しとなります。震災発生後から、常総生協では被災地支援(現地でのボランティア活 動)のほか、脱原発とくらし見直し委員会を発足し、この地で生活していくために、空間線量及び放射能によ る土壌汚染調査、自前で導入したゲルマニウム半導体検出器による食品を中心とした測定を今なお続けるな ど、震災・原発事故による影響からの再起再建を図ってきました。

様々な節目である2021年ですが、3月1回~4回にわたり生産者の方々から当時の状況・この10年で大切に してきたこと・組合員に向けてのメッセージ等「3.11から10年~未来につなげよう~」という題目でメッ セージをいただきます。協同組合の意義や役割、私たちに出来る事を考えるきっかけとして学び、真の復興 につなげていきたいと思います。

-言で言えば「悪くなった」。だからこの地で笑顔、力 (5から) 、光になる

~株式会社高橋徳治商店(宮城県東松島市(震災当初は石巻市)) 代表取締役 高橋英雄社長~

一言で言えば「悪くなった」。

あらゆる事象のスピードがどんどん早く、せわしなく余裕もなく心が失われて…そ れを先が見えないコロナ禍は、先送りしてきた課題をさらに露呈させ私たちを追いま くってくる。 悲しさ・怒り・憤りは、私に「考えて変われ!」と背中をたたく。重く 暗い何かは「言葉化して文字にできるシロモノではなかった」のです。 それでも多く のボランティアさんや組合員支援は私の背中を押してくれて、避難所で人は思いやり を深め助け合い支えあい、私にとってはまさにユートピアでした。

しかし一旦そこを出れば、すべてを失い遺体もあり、みんなが亡霊のように歩き 回って拠り所も居場所も寄る辺も無くし・・・・それも何年か年を経ると極端な言葉 ですが復旧復興の名のもとに「今だけ、自分だけ、お金だけ」、震災前に戻るんだと みんなが走り始めた気がします。それが正しいか別にして今すぐの心の支えになった



ようにです。 お金って幸せになるため、目的なの? ってそういう疑問を押しのけて テレビに映る都会の普 通の日常映像に震災前や素敵な消費を重ねて、とにかく あの時に戻るんだと多くの人が必死になっていきま した。「どこに行くんですか、そんなに必死に」という言葉を聞かないふりで 「心の奥深く暗く重い何か」 は、見たくない、見る必要も価値もない。震災前や自分たちの未来はお笑いバラエティー番組やきらびやかな 豊かさの中にこそあるんだと言わんばかり。

そう言えば何か月もたたずいち早く立ち上がったのは市内の大手パチンコ店、入れないくらいの人で満杯 だったそうな。その心の奥深くの暗く重い何かを連想させるものや事からは目をそらし見ないでおこうと、そ うでないと不安の中で先も見えない中で生きていかなくてはならないから。パチンコ店のように、建設土木や 大手広告会社は[復興という名のもとに]こぞって甘くおいしい利益を求めてどんどん入ってきた。「寄りかか ること・拠り所になる心の支柱」が無くなって…そこにこの国は世界の競争下で追いつくためには「時間あた り生産性を上げる」と マスコミも一緒になって**競争やス<u>ピード、生産効率を企業や工場の目指すもの</u>に**なっ て行ってました。当然働く人は、そういう流れにならないと 昇進の道を閉ざされ降格や雇用環境が変わる= 生活困窮者になりたくないと必死に働くことで生き残ろうとする。まして被災した人や企業は追いつけとばか り、同じ道を行くことになります。 **心の支えであるべき例えば家庭もその流れから逃れられないでお金で教 育や衣食住を満たそうとする**かのように、いろんな意味で楽しい消費に走っていく。豊かさや幸せはお金で買 えるんだと言わんばかりに。急いで急いでと・・・「行く先はどこなんですか?」

●工場の再開

祖父の代からですと2011年で創業106年になって思い返せば何かいつも借入返済にも追われて、ガレキの中で自問しました。

- ・再開してどこに行くんですか?
- ・会社や働く人は何のためにあるの?
- ・これまでとこれから自分の人生って?家族って?

そんな解決もつかない疑問で被災し残骸しか見えない黒一色の世界の中、79名を解雇し全壊の3工場と自宅を前に必死に考えました。そしてたどり着いた答えは<u>「この地で真に必要とされる会社になる」</u>と、 2011年10月1日から「おとうふ揚げ」を作り始めた。

レシピは頭の中しかありません。味に納得がいかず、5日間少しずつ作り冷凍した1000kgをすべて捨てることもありました。「こんなにみんなで必死にここまで来た。震災前の美味しさにもどったんじゃないですか! なぜ捨てるんですか!もう辞める、帰る!」「これまで売り上げゼロなんですよ!」と戻ってきた若い職人のけんか腰の声が床壁が汚れたままの事務所に響く。79名のうち男女23名が戻りました。職人たちも2011年6月ころから自宅の片づけもしながら通い、私と共にヘドロまみれで必死に再開を目指してきた。

気持ちは痛いほどわかる。「震災前を遥かに超えるものを作り、そしてメッセ – ジを込めるんだ」と私は言いました。今では製造はもちろん3,000日を超える事務所スタッフ全員の試食が続く。単においしいまずいではなく、口の中でほぐれ方から唾液と混じった旨みの質や香りや後口まで全部の製品に設計図を作ってきた。上手くいかないときは生産ラインが何時間も止まり廃棄される製品もあった。「何が分かるんだ!」とけんか腰の現場とは幾度となくもめた。食べる皆さんには分からないレベルの本当に微妙なブレ・ズレも修正した。試食中は会話せず一人ひとり口に集中して目をつぶって素材が生きているかを探し続け、それを受けて製造は悩みに悩む毎日。迷うから考える、考えるから新たなところで迷う。 私は本当にそのみんなの頑張りに今も、本当に頭が下がる思いだ。

新工場が稼働して初めて2014年新年会でいつも長いからと社長挨拶をお開きの手締めに回された。大概酔ってしまい、30数名のスタッフを前に、ふらふら立ち上がり、ただ一言だけ「みんなは、ここ何年も苦労したなぁ、ホントに頑張ってきたなぁ、有難う!」と深く頭を下げた途端、涙が出た。顔を上げた。「社長が泣いてる!」って近くのスタッフが言った。「バカヤロウ。飲みすぎたからこれは酒だ」と言いながらみんなの顔を見た。一人ひとりの震災。全員、目が潤んでいた。忘れられない、絶対忘れてはいけない。

●若者たちとの出会い

震災から2年目に、石巻広域圏で1,000人は下らない引きこもりの若者たち(15~39歳)がいることを知った。新工場のハーブ畑の草取りに10人以上が体験に来た。顔を上げない、目を合わせない、声も出さない、作業はゆっくりすぎ、声掛けに無反応、目が死んでいるような…何か震災直後、亡霊のようにうつろな姿で行きかう被災者たちと重なって見える。彼ら彼女らは、その存在を無視され、見たくない、この社会で不必要な存在と自己否定し居場所もなくこころの拠り所もなく、人間性さえ否定されたこともありました。 それは唯一生産性も協調性も会話すらできない無業の弱者、怠け者だから存在価値はないという烙印です。

児童虐待・子供の目の前でDV・離婚・ネグレスト・障がい者認定と薬で目が死んでいる若者、急げ、返事は?遅い、はっきりしろ!と怒号の職場で辞めた若者、震災で祖父を亡くし上屋が無くなった自宅の床下でだれかの流されてきた遺体を見てトラウマになった兄弟、「ここがいい」と就労訓練に片道1時間以上もかけて当社にくる10年も引きこもってた男性は、初めてもらった手当で家族に買った小さなケーキをもって帰り母娘がうれし涙で食べた。翌日戻ってきた父親から怒鳴られまた半年引きこもる。精神病の認定を受けさせない、生活保護も申請しない無業の母親が娘一人のわずかな収入におんぶして薬も高いからと飲ませない…いろんな背景が一人ひとりの心を閉じさせてきた。

2011年の震災時、大好きな親に甘えられず「健気(けなげ)」にいい子を演出してきた子供たちが沢山いた。そして自分を抑えて表現するすべを無くし不登校に、そして中には暴力やいじめや、そして引きこもりになっていく。貧困、教育や賃金や地域など多くの格差、差別、DV、児童虐待、PTSD、ネグレスト、いじめ、非行、県内4,100人の不登校、数え上げたらきりがない。 重ねて2021年はコロナが襲っている。

震災前の2.5倍の借入をして、売上も震災前の60%に満たない中2016年に野菜加工場を作り、引きこもりの若者たちとのいわゆる「就労支援」を構想を役員たちに打ち明けた。売上は戻らず借り入れは多大で、おまけに「あんな子たちに仕事を一から教えて作業させ収益なんか出るわけがない」「年間1億円もの返済しているのに、新たな2億円近い借り入れで慈善事業なんてやっている時ですか!」と怒号が響く。しかし、ほどなくて可決される。練り製造部門(野菜工場反対派)の担当は、子供と話をしていて奥さんから褒められたという。「あなたは変わったね、向き合い方も話す内容も」と。練り製造で考えて悩んで来たことと間接的に野菜加工場の若者たちとの触れ合いが君を変えたと私は彼に伝えた。 彼が言った「社長の言ってた人間性ということが少し分かった気がします」・・・私は陰で小さくやったぁ~ と叫んだ。

野菜加工場の責任者の私の長男も人の心を深く考えるようになってきたと思う。野菜工場用の二ラを納品する栃木の生産者は「自分たちの二ラが若者を変えた」と、自分たちの役割を知った。 生産者から加工、組合員へと思いはつながって 野菜が若者を変えているーしかし、良いことばかりではない。毎日の振り返りは、若者たちのこころの揺れが文字の裏に見えている、二歩進んで三歩さがる、また二歩進んで三歩下がるんだ

なぁって 若者たちに話したら「下がりっぱなしでないですかぁ」と喋るようになった女性が言った。「違う よ、下がった後の二歩前進は別のステージへの二歩、その移る力と別のステージはきっと別の世界だよ」と同 じことを話した。

今はたくさん迷って一人悩んで、落ちても彼ら彼女らには居場所・心のよりどころ・何より同じ心の傷を持 つ仲間がいる。作業を通じてみんなの課題を解決する、信頼できる環境は、誰も作ってくれない、先ず自分が 変わることなんです。引きこもりだった若者たちが、近所の世話好きのおばさんに小さな声でも挨拶する、何 日かして彼女から挨拶すると若者がオハヨウゴザイマスと小さな声で相手の顔も見ないで返す。 「小さな灯 りっこ(灯り) | がともった。「あの娘が笑ったんだよぅ」「えぇ~!ウソ~、ほんとに?すごい!」って 灯りっこが飛び火した。ここで力になり笑顔になり自らが光になり始めた。 「真にこころの復興」が、野菜 加工場や練り製品冷凍食品工場として「かたち」になったから、もう逃げられない、逃げたくない。

「夢を歩いていくとかたちはまた新たな姿を現す」と、被災地からの小さくても大きな発信だ!と、自分に 言い聞かせています。 日々の家庭生活や会社でも周りの世間もまだ未完成です。私は非力ですが、しかし考 え迷うことは止めません。

自分自身もスタッフ達もみんな「もぞこい(けなげに頑張っていて抱きしめたくなるくらい可愛い)んです」

2021年3月 高橋徳治商店 高橋英雄

★★3月6日(土)高橋徳治商店 高橋英雄社長 講演会(オンライン)開催のお知らせ★★

今回はnewsletterでのメッセージでしたが、3月6日(土)14:00~16:00にオンライン(zoom)にて高橋英雄 社長との講演会(交流会)を開催します。当時の状況や復興までの道のり、これからについて高橋社長の生の声 を聞いてみませんか。

- ・講演内容(予定)
 - 日時:2021年3月6日(土)14:00~16:00 オンライン(zoom)
 - 高橋英雄社長 講演(14:00~15:40)
 - 3.11の当時の状況
 - 被災から新設丁場までの歩み
 - この10年何を大切に事業をおこなってきたか
 - 組合員に向けてメッセージ
 - 質疑応答(15:40~16:00)
- ・申し込み方法:→→こちらのQRコードからお申込みください。後ほど参加URLを送信します。
- ・参加費:無料/申込をされて、当日キャンセルの場合でもそのままでOKです。

社員全員「このメンバーで仕事をしていきたい」、この言葉で再出発

~有限会社コタニ(岩手県大船渡市) 取締役会長 小谷善次~

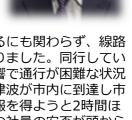
いつも弊社製品をご愛用頂き、誠にありがとうございます。

東日本大震災からもうすぐ10年になろうとしています。巨大地震からわずか20分か ら30分で到達した想像を絶する大津波は多くの人々の命と建物を一瞬にして奪い去 り、現場はまさに地獄と化してしまいました。

私は1週間の出張予定で岩手県大船渡市の現地工場にいました。3月11日午後2時46 分、帰京前日にそれは起こりました。岩手県内でも大きな被害を受けた大船渡市内の 取引先様事務所で地震に遭いました。2階で商談中でしたが、あまりの大きな揺れに立 つことも出来ず、10数秒その場から動けず、立ち往生していたと思います。

この会社は防波堤のすぐ側の会社で、海抜0メートル地帯です。事務所から脱出し裏 の高台に逃げ、大船渡線の線路を越え、さらに国道の上まで逃げました。高台の上であるにも関わらず、線路 上まで水没していました。この信じられない状況から私は、会社の社員の安否が気になりました。同行してい た社員は車で避難をしていた為、合流後に工場へ向け走りました。主要道路は地震の影響で通行が困難な状況 でしたが、何とか走行を続け、市内の先にある工場を目指しました。市内を抜けた後、津波が市内に到達し市 内全体が被災したのです。今動くのは危険と判断し、高台にある市の施設で何らかの情報を得ようと2時間ほ ど待機をしていました。その間にも多くの人が施設へ避難してきました。待機中も工場の社員の安否が頭から 離れず、工場へ向かうルートを考えていました。津波の情報などから海岸線の道路は無理だと判断し、山間の 道ならば通れる可能性があるかも知れないと判断し、工場へ向かう決意をし出発を致しました。道中は落石も 多く、道が崩れてしまうかもしれないという恐怖がありましたが、他の車が通った形跡も見つかり、期待と不 安の中の移動となりました。平常ならば20分程の距離ですが、道の状況が悪く2時間かけて19時過ぎに工場近





く(500m位)まで到着しました。しかし工場周辺は被害が大きく、津波に流された瓦礫の山で通行ができず、工場へ近寄る事は出来ませんでした。そこで地区の避難所を回り、社員を探し回った結果、地元の綾里中学校体育館に当日出勤者20名全員が避難をしておりました。その時の喜びは何にも例えようがありません。皆と抱き合い生きていたことの喜びを分かち合いました。

私は綾里中学校(岩手県大佐渡市)の体育館で1週間お世話になりました。社員の中には家が流出してしまった人もいましたので、全員が取りあえず落ち着くまで避難所にお世話になる覚悟でいましたが、幸い5日目で全員親戚の家などに落ち着くことが出来ました。関東へ行く段取りをしましたが、道路や空港、またライフラインも機能しない状況でした。交通のアクセスが無い、ガソリンが無い、通信が取れない等、考えた事も無い様な体験をしました。

避難初日の夜、今後の方針を社員と話し合い『現メンバーで仕事をしていきたい』と社員全員から要望を貰いました。どのような困難であっても社員全員の雇用を守る責任を感じ会社再開の約束をしました。弊社岩手工場もほぼ全壊、建物も2階の1部が残っただけの状況でした。工場の敷地内は瓦礫の山となり、どこから手を付ければ良いのか分からない状況からスタートしました。震災直後、自衛隊が道路の瓦礫の撤去を行いましたが家や工場内には、まだ瓦礫が残った状況でした。その数日後に土建会社が地元から瓦礫の撤去作業を始めました。工場でも大きな瓦礫から撤去が始まりました。撤去が進み、少しずつ道路も通れるようになり、工場でも社員を3班に分け、3日に1回ずつ出勤をして工場内の瓦礫の撤去作業を分担して行いました。岩手のわかめは3月上旬から4月末までが収穫の時期です。この災害は収穫が始まった矢先の出来事でした。養殖わかめの施設も2年目に従来の50%まで設置がされました。

震災で生産者も激減し、生産量も上がらず原料価格も高騰し厳しい経営をしてきました。その中で創業の信念を守り、正直でこだわった商品の製造を続けて参りました。今後も岩手の海藻の良さを商品化しご愛用して頂けるよう、努力してまいります。最後になりましたが、東日本大震災の時は多大なるご支援を頂き、生協職員の皆様はじめ組合員の皆様には大変感謝しております。支援金はフォークリフトの購入に充てさせて頂き、今でも大事に使用させて頂いております。組合員様からは沢山の心温まるメッセージを頂き、また災害時には商品部の方や理事様など数回に渡り現地に来て頂き、発電機なども搬入して頂き、大変助かりました。改めて有難く感謝しております。これからも生協様のお役になれるよう努力してまいりますので今後ともご指導よろしくお願い致します。

2021年3月 有限会社コタニ 取締役会長 小谷善次

コタニ 3月1回のおすすめ商品 15 岩手県産生わかめ(カット)120g 特価335円(税抜)

黒潮と親潮の二大潮流が交錯する岩手の海岸は、「わかめ」の成長には最も適しており、 「国産の中でも業者が認めた質の高い「わかめ」」としても有名です。ぜひこの機会にご賞味ください!



2021年 春の討議資料配布のお知らせ

6月に予定している常総生協第48回通常総代会で、新しい年度の活動を決めていきます。アンケートに答えて下さることで、常総生協の力になります。ご協力お願いします。

討議資料を基に「春の地区懇談会」を開催していく予定です。お気軽にご参加ください(後日、日程をお知らせいたします)。

(配布資料)

- 春の討議資料2021
 - 1冊 16ページ
 - 討議資料最終ページにアンケート記載する用紙があります。切り取って提出してください。
- 新型コロナウィルスに関する実態調査アンケート
 - 1枚 A3サイズ (二つ折り)
- ■提出締め切り:2021年4月2日(金)まで

WEBフォームでの回答も可

各用紙にWEBフォームへアクセスするQRコードを参照してください。

